

ひとり歩き

下呂中学校 三年 中島 璃子

「ひとり歩きできる人間」

この言葉を聞いた時、あなたはどんな人間を思い浮かべますか？私が通う下呂中学校では「ひとり歩きできる生徒」を教育目標にして全ての活動が行われています。普段の授業や学校行事をはじめ、生徒会執行部としての活動や地域での活動を通して、そんな人間を目指しています。私は中学校生活でひとり歩きとはどういうことなのか自分なりに結論を出すことができました。

私の学校では、寝屋子学習という一年間を通しての職業体験学習があります。私は、下呂市役所地域振興課で受け入れていただき、地域活動を通して、下呂市を活性化させようとする地域振興課の方から、働く意義や魅力、社会生活の中で大切にしたい「生き方」を学ぶことができました。そんな職業体験学習の折に担当の方から「ジュニアリーダーをやってみない？」と勧められました。ジュニアリーダーとは中高生が社会に出た時に必要となる力を地域の活動に参加しながら学んでいくための組織です。担当の方から、ジュニアリーダーになると人前で話すことに慣れたり、地域の方との関わりが多くなったりするということを聞き、ジュニアリーダーになることを決めました。参加したばかりの頃は、どう動いていいのかわかりませんでしたが、定例会に参加していくにつれて、その場の雰囲気にも慣れていきました。一カ月に一回の定例会では、地域の小学生を対象としたレクの運営や進行を計画・練習します。まずは先輩たちがお手本でレクを見せてくれました。先輩たちは人前で話したり、企画を運営したりする経験を積んでいたため、スムーズに進行していきます。また、実際に動いてみながら、問題点を検討し、小学生にとってより良い活動になるよう改善していくこと、何より自分たち自身が楽しんで取り組んでいることが印象的でした。その後、私が進行してみるようになりました。今まではレクを見たり参加したりするだけだったので、進行することはとても緊張しました。緊張で言葉が飛び飛びになってしまいましたが、先輩たちがアイコンタクトをとってくれたり小声でアドバイスをしてくださったりしたおかげで、最後は進行することの楽しさを感じることができました。私は人前で間違えてしまうことやそぐわないことをしてしまうことが苦手です。しかし、この経験から「間違ってもいいから一旦挑戦するという考え方」の大切さを実感することができました。さらにジュニアリーダーの経験を通して、考え、実行し、評価をもらい、改善する、この四つのことが繰り返されていく PDCA サイクルが活動や自分の考えをより良くするために重要なのだと気づきました。

この考え方に気づけたことを、ジュニアリーダーとして参加した中原の子供会のレクで活かすことができました。事前に想定して進行する上で難しいと感じたところや先輩からアドバイスされたところを特に意識してレクを進行しました。レクをしている時の小学生の笑顔や保護者の方からいただいた感謝の言葉は忘れられません。活動が終わった後にはメンバーで振り返りをし、小学生や保護者の方の感想などを取り入れながら改善し、次の機会に繋げることができました。こういった経験は、中学校での生徒会執行部の活動や部活動、日常生活の中でも、生かすように意識しています。

「ひとり歩きできる」とは試行錯誤する中でより良い考えを見つけていく生き方ではないかと思います。そして、その中には、まず挑戦してみることで、その結果からより良くするための問題点や課題点を見つけること、自分だけでなく他人とのコミュニケーションを取りながら考え方を広げていくことが大切なのだと思います。このことは、学校生活はもちろん、寝屋子体験学習や生徒会執行部としての活動、ジュニアリーダーとして地域と関わる活動がなければ気づけなかったと思います。ジュニアリーダーや生徒会執行部として地域の中で、実際に生かすことができたからこそ気づきました。私に関わってくださった地域の皆さんに感謝を伝えたいです。最後に地域で活動する中で、中学生だからまだ早いとか、卒業して社会に出てから社会の一員になるという固定概念は捨てる必要があると感じます。この瞬間から中学生として社会に参画しつづけられる人間でありたいです。その時に、「ひとり歩きできる人間」という考え方が生かされると考えます。